

Support

孤立を生まない社会をつくる。
命をつなぐ「こども宅食」を全国に広げたい
こども宅食応援団への寄付は、ふるさと納税で募集しています。

ふるさと納税は、税金の納め先や希望する使いみちを指定できる制度です。
ワンストップ特例申請書または確定申告の手続きによって税額控除が行われるため、
実質2,000円の負担で数万円の寄付ができます(収入額に応じた寄付額シミュレーションもできます)。
昨年度は395名の皆さんにご支援頂き、3,939万円のご寄付をいただきました。
ご支援いただいた皆さまありがとうございます!

ANNUAL REPORT

2023-2024  こども宅食応援団

この画像が目印!



こども宅食応援団
ふるさと納税はこちら



こども宅食応援団は「親子のつらいを見逃さない社会」を一緒に作っていく仲間を募集しています。
皆さんからの寄付や、シェアや「いいね!」、励ましの言葉、共感の輪をひろげて頂くこと。どんな形であれ、頂いた応援は、
こども宅食応援団の燃料になっています。困っている、つらい思いをしている家庭が、社会から見逃されなくて、
ひとりでも多くの親子に笑顔が灯りますように。ぜひご支援ください!

SNSで応援

X、Facebook、インスタグラムのフォロー、
「いいね」や「リポスト・シェア」で応援お願いします!
「#こども宅食」のハッシュタグを入れた投稿や
ブログ記事なども大歓迎です!



共感する仲間を増やして応援

こども宅食事業や解決したい社会問題について、
地域や企業、大学といったコミュニティでの勉強会や
講演等で取り上げて頂き、こども宅食に共感する仲間を
一人でも多く増やしていきたいと思っています。
講演依頼など、問い合わせフォームからご連絡下さい。



すべてのこどもの
となりにぬくもりを



団体概要

団体名 : 一般社団法人こども宅食応援団
設立 : 2018年10月
WEB : <https://hiromare-takushoku.jp>
所在地 : (佐賀事務局) 佐賀県佐賀市呉服元町2-15 COTOCO215
(東京事務局) 東京都千代田区神田神保町1-14-1KDX神保町ビル3F

こども宅食応援団は、認定NPO法人フローレンスグループであり、連携してこども宅食の全国普及に取り組んでいます。

Vision

すべてのこどもの となりに、ぬくもりを。

親子のとなりに、そっと寄り添う「人」と、

心や体を支える、あたたかな「食」。

「こども宅食」が届けている「ぬくもり」が、

日本中、どの地域にも当たり前にあること。

身近に暮らす人たちが、互いに声をかけあい、

どんな人も「誰かに頼っていいんだ」と、思える。

そんなふうに、こどもたちの暮らしが「ぬくもり」で

いっぱい溢れる未来を目指しています。

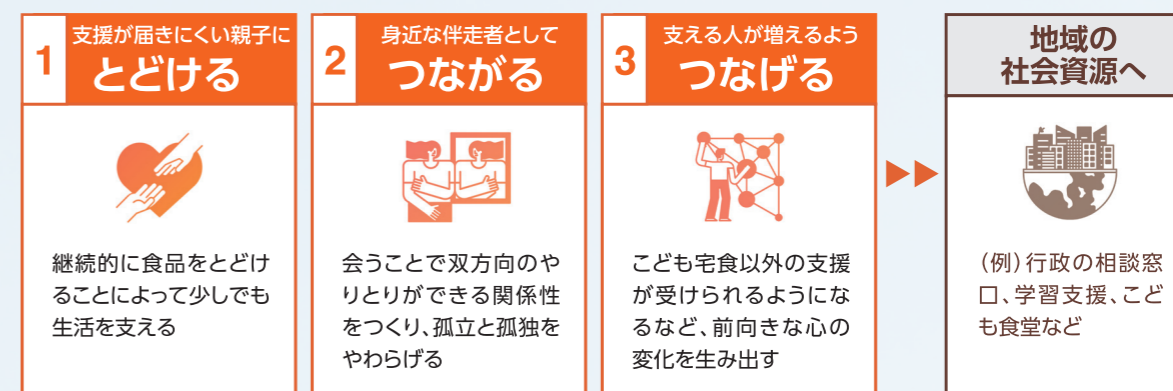
こども宅食とは

こども宅食は、困りごとを抱えたご家庭へ
定期的な食品のお届けきっかけに、
つながりをつくる取り組みです。
ご家庭を見守りながら、様々な支援につないでいきます。

動画で知る「こども宅食」



こども宅食が生み出す 3 つの変化



こども宅食応援団 代表理事
認定NPO法人フローレンス会長
駒崎 弘樹

こども宅食応援団は5周年を迎え、今は全国約200の団体さんで実施されるまで広がっています。ここまで一緒に活動してきた実施団体の皆さん、応援して下さる企業各社、寄付者の皆さん、本当にありがとうございます！

コロナ禍を経て、人と人とのつながりが薄れ、こどもたちを取り巻く環境が大きく変化しました。困りごとを抱えながらも、誰にも気づかれず、孤立していく家庭が増えている今、私たちから家庭に向いて、直接支援を届けていくことが求められています。そのために、私たちは地域や業界を超えた、多様な人々と協働し、こども宅食の全国普及、そして多様なアウトリーチ支援の創出に取り組んでいきます。

孤立を生まない社会を創るために。こども宅食応援団は、これからもみなさんとともに歩んでまいります。



こども宅食応援団 常務理事
原水 敦

現場の声が聴きたい！そう願ひ、私たちは全国で「こどもたちのために」と日々奮闘されている、こども宅食実施団体のみなさんの元に、アウトリーチさせてもらっています。

「この子のために」と、それぞれの地域で創意工夫し活動している団体さんとの対話からは、いつもたくさんの学びがあり、貴重な知恵と想いと願ひを受け取らせてもらっています。そんなみなさんから受け取った「想いのバトン」を、しっかりと国や他の地域へと届ける。それがわれわれの役割です。様々な地域を超え業界と協働して、これからも「すべてのこどもたちのそばにぬくもり溢れる社会」をみなさんと共に紡いでいきます。

Mission

今日を生きる子どもたちのために、
多様な人々が手を携え
孤立を生まない社会を創る

この瞬間にも、孤立し、

SOSが見えない子どもたちがいます。

困難を抱える子どもたちへ、支援を届けるために。

今こそ、地域や業界を超えて、人々と協働し

「多様なアウトリーチ支援」の創出に取り組みます。

国や自治体、企業、専門機関、ボランティア。

今日からひとつずつ、出来ることを持ち寄って

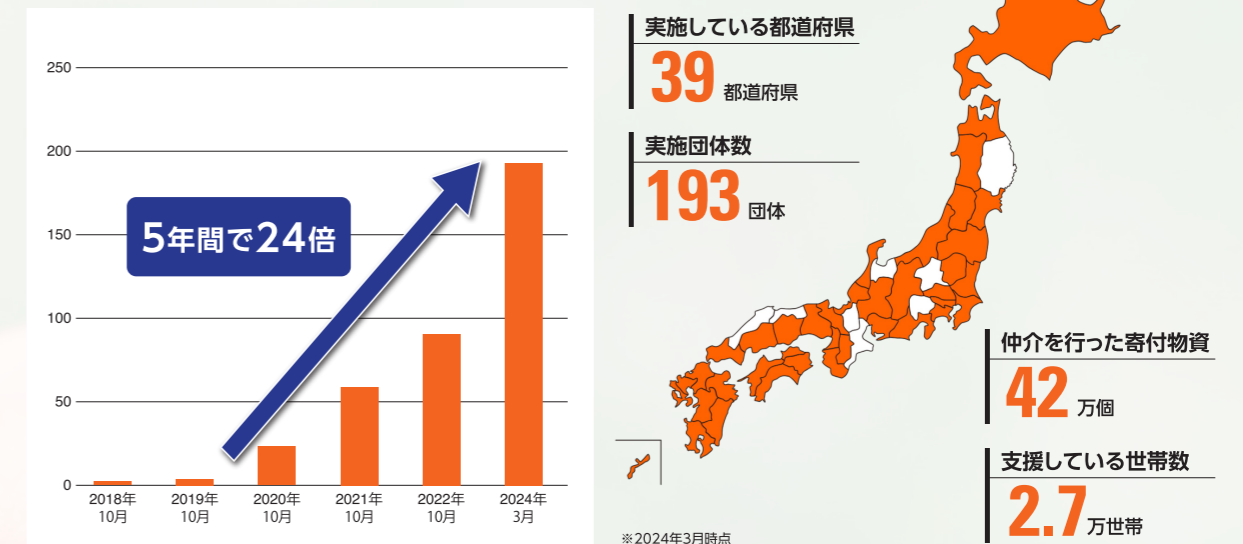
ともに手を携え、まちを変え、地域を変え、

「孤立を生まない社会」の実現に挑戦します。

こども宅食応援団がめざす中長期目標

こどもの生活圏域(中学校区に1つ)に「こども宅食」などの
アウトリーチ機能(ツール)がある状態をつくる!

こども宅食の広がりと活動実績



新たなビジョン・ミッションのもと活動を拡大していきます

こども宅食の普及活動を通じ見えてきたことは、「孤立しがちな子育て世帯に向けたアウトリーチ・見守り」そのものが地域に不足しているということです。地域や社会が連携することで、親子をとりまく環境が少しずつ変わり、親子の特性に合ったさまざまな「頼れる人・頼れる機会」がひとつふたつと増えていき、ともに支えあう関係が日常化していきます。団体設立6年目を迎え、こども宅食応援団は、こども宅食以外のアウトリーチ・見守り手法のモデル的実施のサポートおよび普及事業を全国の団体と連携し、活動をさらに拡大していきます。

「こども宅食応援団」の伴走支援

様々な地域・組織で活動する団体の皆さんが、こども宅食を「始める」「深める」「広げる」ために必要な応援メニューを展開しています。

全国の仲間とともに
喜びも悩みも語り合う

ZOOM交流会
こども宅食カフェ

地域内の連携を強化する
エリア別の交流会

Facebookグループを活用した
団体同士の情報交換

団体の成長につながる機会や
情報を学び合う

勉強会や研修を通じた
ノウハウの共有

団体同士で事例を伝え合う
こども宅食シェア会

LINE等を活用した
運営相談・情報提供

国や企業とつながり情報や
資源を分かち合う

国や企業からの
資金・物品の提供

現場の意見をふまえた
国への提言活動

全国の取り組みの
発信・広報活動

こども宅食は、地域や業界を 超えてさらに協働の輪を広げています

「親子の支援を語ろうキャラバン」 全国10か所で開催

参加人数 **224** 名

●開催地域：愛知県、長野県、大分県、徳島県、愛媛県、鳥取県、福井県、山形県、栃木県、大阪府

2023年度は「地域みんなで親子を支えるつながり」を深める取り組みとして「親子の支援を語ろうキャラバン」を企画。全国10か所で開催し、こども宅食実施団体をはじめ、こども食堂や福祉関係者、行政など、親子の支援に携わる皆さんが集い、語り合いました。活動事例の発表では、この子のために日々活動する各地の支援者の皆さんの思いを聞かせていただきました。



【参加者の感想】

事例発表を聞いて、日々の活動でもやもやと悩んでいた事の答えをもらえた

支援の届きにくい家庭へのアウトリーチのイメージがもてた

行政や地域との連携方法には、様々なアプローチがあると勉強になった

こども宅食の取り組みは「地域ケアシステム」に組み込むべきものだと感じた

「こどもフードアライアンス」 国内最大級の食品卸と連携し2.5万世帯 規模で全国への物資配送を仲介

関連企業 **34** 社 仲介物資数 **25.3** 万点

「こどもフードアライアンス」は、認定NPO法人フローレンスと株式会社日本アクセスが、2022年1月から行っている、子育て家庭へ食支援を行う取り組みです。大手食品メーカーおよび日用品卸各社の協賛のもと、こども宅食応援団の全国のネットワークを通じて、こども宅食実施団体に寄贈食品などを届け、全国の子育て家庭に支援を実施しました。こどもたちを食品で支えようという目標に賛同いただいた「アライアンス(=同盟)」は年々強化され、回を重ねる毎に支援の輪が広がっています。孤立しがちなご家庭へ直接食品や日用品をお届けすることで、継続的にご家庭との関係を築いています。



【家庭の声】

物価高騰で生活が苦しいです。親の私は1食減らしていて、これから冬休みになると食費が倍近くかかるので助かります。

「こどもが多いので大変助かる。」と、こども宅食の訪問時に、安堵から泣かれてしまう保護者さんもいました。

【支援団体の声】

物資と共に、多くの方から支援の手が差し伸べられている。生活が苦しくても心は貧困になる必要はないと思っています。

妊娠期からつながる！ 「こども宅食 赤ちゃん便」を開始

助成事業での新たな立ち上げ団体数 **7** 団体 支援世帯数 **66** 世帯

近年、虐待死や乳幼児遺棄など辛いニュースが後をたたず、妊娠期から早期の課題解決と支援が求められています。そこで、産前産後に困りごとを抱えた家庭へ訪問し、オムツや日用品を届けながら相談援助を行う「こども宅食 赤ちゃん便」を開始しました。23年度の佐賀県でのトライアル事業を経て、助成事業を実施。今後は、事業立ち上げや継続実施を目指し、団体への伴走支援を行っていきます。



【実施団体の声】

これまでは、フードパントリーの会場へ食品を受け取りに来てくださっていたが、他の利用者の目もありゆっくりとお話を聴ける状態ではなかった。赤ちゃん便を通して配達時にお話することができた。今後も定期的に訪問を続けていきたい。

行政との連携により、特定妊婦であることがあきらかな方達への支援という、目的に適った活動になった。今までの活動ではつながることのできなかった特定妊婦の世帯にアプローチできたことは大変喜ばしい。妊産婦のメンタルケアに少しでも役に立てればと願っている。

全国152のこども宅食実施団体への 物資サポート事業を実施

支援世帯数 **59,718** 世帯

新型コロナウイルス感染症による影響の長期化や物価の高騰に伴い、子育て世帯や子どもたちを取り巻く環境の悪化が懸念されています。経済的に苦しい家庭ではダメージが深刻化し、社会からの孤立が深まっていることも課題となっています。このような家庭を支えるために、こども家庭庁補助事業「ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業」を受託したことを受け、これを原資として全国のこども宅食実施団体への物資サポート事業を実施し、こどもの貧困や孤独・孤立への緊急的な支援を行いました。



【助成団体の声】

商品の中から「選べる」点がとてもよかった。本当に家庭に届けたいものを心を込めて届けられることができ、ご家庭にも大変喜ばれ、さらに関係性が深まったように感じている。

連携している自治体からもう少し支援件数を増やしてほしいという要望に応えることができた。こどもたちが年末から年越しまで楽しみに食べてもらえます。

NEWS

令和5年度 佐賀さいこう表彰 (自発の地域づくり・協働部門) 受賞

「佐賀さいこう表彰」は、佐賀県における地域課題解決に向けた取り組みを行い、顕著な成果を挙げている、又は地域の下支えとして活動しているCSO等を対象にした表彰です。こども宅食応援団は、「こども宅食事業の普及をはじめ、地域の実情に即した仕組みづくりのノウハウを実施団体へ提供し、地域をつなげるネットワークの構築に貢献した」という点が評価され、今回の受賞となりました。



令和5年度 佐賀さいこう表彰 表彰式
「自発の地域づくり・協働部門」
令和5年11月26日

こども宅食は、「孤立する家庭に伴走する 新たな支援ツール」として社会的な注目が高まっています

- 2020 「支援対象児童見守り強化事業」の対象に!
- 2021 政府備蓄米の提供開始と上限引き上げを達成!
小学校の教科書にこども宅食が掲載!
- 2022 「骨太の方針」にこども宅食が掲載!
- 2023 「こども未来戦略」へ明記!



妊娠期からつながり 届ける支援で安心を育む

こども宅食 赤ちゃん便

近年、虐待死や乳幼児遺棄などの辛いニュースが後をたたず、いち早い課題解決と支援が必要とされています。困窮、孤立、病気など、複数の問題を抱えた親子が、相談できる家族も身近な知人もなく社会とのつながりをもつ機会が失われ、不安を抱きながら迎える出産、そしてその後の子育てには大きなリスクを伴います。そんな、

産前産後の子育てに不安を抱えるママ達をサポートするため、「こども宅食赤ちゃん便」がスタートしました。

赤ちゃん便は、産前産後に何らかの心配や課題を抱えた家庭に訪問し、食品、オムツやミルク、離乳食といった赤ちゃん用品などを届け、会話をしながら相談援助を行う訪問型の活動です。

対象は、特定妊婦^(※)や暮らしにおいて困りごとを抱える親子。

対象時期は、妊娠届を提出する妊娠4ヶ月頃～3歳までです。

3歳以降も、必要に応じて継続して見守り支援を行います。

※特定妊婦とは

出産後の子どもの養育について、出産前に支援を行うことが特に必要と認められる妊婦のことです。(児童福祉法第6条の3 第5項) コロナ禍で母親の困窮や孤立は深刻化し、2020年度には全ての妊婦のうち7人に1人が特定妊婦であることがわかっています。また、その多くは行政支援につながらない、つながりにくい状況にあります。



訪問して安心を届ける

赤ちゃん便が大切にしていることは、品物を届けるだけでなく、生活に必要なサポートや困りごとと一緒に解決していこうと親子に寄り添うことです。

「ミルクが高くて買えないから大人の食費を抑えています」「オムツの交換回数も減らして」など、何気ない会話や表情から自然な形で生活状況を知り、今必要な支援へとつなげます。訪問だけでなく、LINEなどでいつでも連絡がとれるようにつながります。時には、家計管理の方法をレクチャーしたり、予防接種のスケジュールを一緒に考えたり、保育園の入園手続きに同行したり、また、専門家の相談窓口を紹介するなど、一人では行動を起こしにくい事柄へのサポートも行います。

「身近にいる一人の先輩ママのような存在でいたいんです」

赤ちゃん便を担当するスタッフはそう語ります。

つながり交流を重ねるなかで「この人になら相談したい」「助けてほしい」と思える信頼関係が生まれ、課題解決に向け一緒に考えていくことができるようになります。

誰にも相談できずにひとりで困っている親子に寄り添える事が、こども宅食赤ちゃん便の魅力です。

「出産おめでとう」

新しい命の誕生を喜べる環境づくりを応援したい

早期(妊娠期)からつながりを持ち、継続して寄り添い、見守りを行うことは、生活の困りごとを軽減することはもちろん、つながることで孤立感がやわらぎ、安心して妊娠・出産・育児に臨むことができるようになります。

佐賀県でのトライアル事業からスタートした「こども宅食赤ちゃん便」は、全国の実施団体の皆さんの元へ思いをつなぎ、地域・行政・社協・企業・団体からの理解と協力もひろがり多様なサポートが実施されるようになりました。

「妊娠期からつながることができれば、孤立出産・育児はふせぐことができる」

こども宅食応援団は、親子とつながり見守る「こども宅食赤ちゃん便」を、皆さんとともに全国に広げていきます。



私がお母さんじゃなければ

妊娠・出産期は、精神的にも身体的にもバランスが崩れやすく辛い時期です。

経済的にも困窮し「出産準備品をそろえられない」「ミルク・オムツが買えない」また、「赤ちゃんどう向き合えばいいのかわからない」など、不安を一人で抱えて日々を過ごすお母さんも少なくありません。

産前は前向きな思いで妊娠出産に臨んでいたお母さんも、働く事ができず体調もすぐれない中で、産後うつを発症してしまうこともあります。「私がお母さんじゃなければ」と申し訳なさや罪悪感で日々の暮らしが成り立たないそんな状況も起こりえるのです。

こうした親子の状況は行政等でも把握をしていることがほとんどですが、支援を届けたくても「自分の子育てを否定されるのではないか」「親として失格と思われたくない」など支援を受けることに対して拒否感や警戒感を抱くお母さんもいることから、実際には十分な支援が届けられていないのが現状です。

親子の課題が複雑化するその前に、つながり、みまもることができるとか。親子の支援を考えていく中で、大きな課題となっています。

「こども宅食赤ちゃん便」立ち上げへの思いを《こども宅食応援団公式HP》からご覧いただけます



届ける支援で孤立を防ぐ
こども宅食応援団
井内美奈子インタビュー

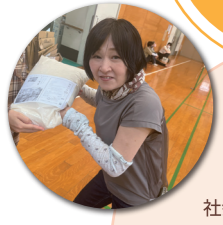


つながることで安心を育む
スチューデント・サポート・フェイス
中山志穂さんインタビュー



「妊娠中からつながり、支え、安心して
子育てできる環境をつくる」
こども宅食赤ちゃん便の勉強会を行いました

寄付者のメッセージ



笑顔の親子であふれる社会になることを願っています。様々な理由で「つらい」と言えない親子に、あたたかな手を差し伸べる社会になりますように。
ふるさと納税寄付者

プロジェクトに携わっている皆様のお力添えに少しでもなればと思います。これからも頑張っ子供達の未来を支えてください。
ふるさと納税寄付者



すべての子どもたちが、夢を持って堂々と社会に出ることができる未来になりますように。
ふるさと納税寄付者



たくさんの親子が安心して生きていけるようにサポートをよろしく願い致します。
ふるさと納税寄付者

どんな家庭でも、楽しい食事ができるよう。声を上げづらい人にも届きますよう、願っています。
ふるさと納税寄付者



パートナー企業のメッセージ



「子どもは社会で育てる」という北欧の理念を伝えるために始めたベビーボックス。今回これが本当に必要な皆さんに届けることができ、特にお母さん達の自己肯定感をアップすることに役立ったと聞いて、私達の自己肯定感もアップしました！子ども、親御さん、そしてそれを見守る人達、みんなを大切にできる活動。これからも続けていきたいです。
kippisブランドディレクター 根本さん



弊社利用のユーザー様はお子様がいらっしゃる年代の女性が多く、社会問題の中でも子どもたちの貧困に対して関心が高いです。一人でも多くの子どもたちがよりよい生活を送る事が出来るよう活動を応援しています。
ブランディア

青森・山形・福島県内のローソン拠点でフードドライブを実施しました。食品と日用品をこども宅食応援団の加盟団体様にお届けし、マチのお役に立てたことは非常に嬉しく思います。改めて人と人の地域での「繋がり」の大切さを感じました。
株式会社ローソン



明治グループは「人を育む」「社会を支える」「地球を未来につなぐ」という3つのテーマで社会貢献活動を展開しています。こども宅食応援団と一緒に、一人でも多くのこども達が笑顔になれるよう、これからも取り組んで参ります。
明治ホールディングス株式会社

理事会・戦略パートナー

代表理事：駒崎 弘樹
認定NPO法人フローレンス会長

常務理事：原水 敦
一般社団法人ビープラス 代表理事
社会福祉士

理事：松山 亜紀
キンドリルジャパン株式会社 社会貢献 担当部長

戦略パートナー

藤沢 烈
一般社団法人RCF

河合 秀治
セイノーラストワンマイル株式会社

鴨崎 貴泰
特定非営利活動法人 日本ファンドレイジング協会

村上 玲
一般財団法人村上財団

2023年度会計報告

経常費用の使徒概要	(千円)
支援物資購入費	217,873 ※1
荷造運賃	8,016 ※1
支払助成金	705
旅費交通費	2,571 ※1
会議費	314
業務委託費	50,156
(内、こども家庭庁補助事業)	18,564 ※1
(内、佐賀他 事務局人件費)	19,106
(内、経理総務、広報他)	12,485
広告宣伝費	1,147
通信費	1,046 ※1
その他費用	2,543 ※1※2
経常費用計	284,371

ご寄付・その他収益の概要	(千円)
●指定正味財産増減の部	
受取寄付金	34,746
一般正味財産への振替額	-39,400
当期指定正味財産増減額	-4,654
●一般正味財産増減の部	
受取寄付金	739 ※3
受取寄付金振替額	39,400 ※4
受取助成金	244,110 ※5
受取謝金	160
受取利益・雑収益	11
経常収益計	284,419
経常費用計	284,371
当期一般正味財産増減額	48

千円未満四捨五入

※1 全国各地の宅食団体に対する支援物資の提供や、全国10都道府県への周知・啓発の巡回イベントを展開する令和5年度こども家庭庁「ひとり親家庭等のこどもの食事等支援事業」による費用を含む。

※2 経理・総務・法務等の法人運営費を含む。その他費用の詳細は「佐賀県ふるさと寄付金」NPO等を指定した支援による寄付金活用実績報告書 (<https://www.cso-portal.net/furusato/group/archives/58>で公開予定) をご覧ください。

※3 ふるさと納税以外の通常の寄付金

※4 指定正味財産からの振替え

※5 令和5年度こども家庭庁「ひとり親家庭等のこどもの食事等支援事業」など

●正味財産期末残高(次年度以降への繰越し等)

指定正味財産期首残高 71,390

当期指定正味財産増減額 -4,654

一般正味財産期首残高 178

当期一般正味財産増減額 48

66,962

パートナー企業・団体

こども宅食応援団をさまざまな形でささえていただいた皆さんを一部ご紹介します。(敬称略・50音順)



カードゲーム「fromMe」powered by 日本ファンドレイジング協会



kippis (キップイス)



一般社団法人バンクフォースマイルズ



ブランディア



株式会社日本アクセス



明治ホールディングス株式会社



株式会社ローソン

※グループ団体である認定NPO法人フローレンスを通じてサポートくださった企業も含む

こども宅食応援団は設立5周年

こども宅食応援団は、2018年から活動し、2023年に設立5周年を迎えました。こども宅食事業を実施している全国各地の団体の皆さん、ご家庭へお届けする食品や物資などを寄贈して下さる企業各社、そして、いつも活動を応援して下さる寄付者の皆さんなど、思いを同じくして協働して下さる皆さんへの感謝を込めて、記念ページを公開しています。全国への広がり、運営メンバーの思い、企業や寄付者・団体の方から寄せられた「こども宅食を通して描く未来」コメントなど、ぜひご覧ください。

www.hiromare-takushoku.jp/5th/

